

タイトル	作者1	作者2	発行所	備考1	発行年
「能力に基づく差別の廃棄」	竹内章郎		法政大学出版会	▽08.5.16 b13	
戦後日本における女性障害者への強制的不妊手術	利光恵子	松原洋子監修	立命館大学生存学 研究センター	△19.11.19 b519 n87	2016
いのちの平等論—現代の優生思想に抗して	竹内 章郎		岩波書店	○▽10.7.24 b108 n23	2005
優生学の名のもとに—「人類改良」の悪夢の百年	ダニエル・J. ケヴルズ		朝日新聞	○▽95.1.20	1993
対論 人は死んではならない	小松 美彦		春秋社	△19.11.29 b521 n88	2002
脳死・臓器移植の本当の話	小松 美彦		PHP研究所	○10.10.30 b125 n25	2004
人・資源化への危険な坂道—ヒトゲノム解析・クローン・ES細胞・遺伝子治療	福本 英子		現代書館	○13.2.9 b223 n41	2002
私は私らしい障害児の親でいい	児玉 真美		ぶどう社	△▽14.4.9 b249 n45	1998
長期脳死 娘、有里と生きた1年9ヶ月	中村 暁美		岩波書店	△15.6.21 b298 n53	2009
子を見ると、子を看取るとき—沈黙の命に寄り添って	山崎 光祥		岩波書店	△14.11.22 b277 n49	2014
「尊厳死」に尊厳はあるか—ある呼吸器外し事件から	中島 みち		岩波書店	△14.4.12 b250 n45	2007
遺伝子医療への警鐘	柳澤 桂子		岩波書店	△03.5.7	2002
長期脳死の愛娘とのバラ色在宅生活 ほのさんのいのちを知って	西村理佐		エンターブレイン	△13.5.23 b231 n43	2010
安楽死と尊厳死 医療の中の生と死	保阪 正康		講談社		1993
優生学と人間社会—生命科学の世紀はどこへ向かうのか	米本 昌平		講談社	○00.9.14	2000
死の自己決定権のゆくえ: 尊厳死・「無益な治療」論・臓器移植	児玉 真美		大月書店	○13.12.14 b242 n44	2013
死は共鳴する—脳死・臓器移植の深みへ	小松 美彦		勁草書房	○10.10.22 b124 n25	1996
バイオエシックスの基礎—欧米の「生命倫理」論	H.T. エンゲルハート H. .ヨナス		東海大学出版会	○▽10.11.30 b128 n25	1988
生殖技術—不妊治療と再生医療は社会に何をもちたらずか	柘植 あづみ		みすず書房	○13.2.13 b224 n41	2012
優生思想の歴史—生殖への権利	スティーブン トロンブレイ		明石書店	○01.5.1	2000
福祉国家の優生思想—スウェーデン発強制不妊手術報道	二文字 理明		明石書店	○01.5.5	2000
優生学と障害者	中村 満紀男編著		明石書店	○▽09.2.17 b34	2004
反発論—抑圧の人間学からの解放	山下 恒男		現代書館	○▽84.6.10	1977

<反延命>主義の時代—安楽死・透析中止・トリアージ	小松美彦編著	市野川容孝編著	現代書館	△21.8.20 b569 n112	2021
ナチスドイツと障害者「安楽死」計画	ヒュー・グレゴリー	ギャラファー	現代書館	○01.5.3	1996
臓器移植の人類学—身体の贈与と情動の経済	山崎 吾郎		世界思想社	△16.9.20 b352 n61	2015
現代思想 vol.26-11 98.9 特集遺伝子操作			青土社	◎	1998
遺伝子の新世紀	エヴリン・フォックス	ケラー	青土社	◎02.2.24	2001
バイオ化する社会 「核時代」の生命と身体	粥川準二		青土社	△19.10.27 b516 n87	2012
生権力の歴史—脳死・尊厳死・人間の尊厳をめぐる	小松 美彦		青土社	◎13.4.6 b229 n42	2012
第三帝国と安楽死—生きるに値しない生命の抹殺	エルンスト	クレー	批評社	○02.11.22	1999
健康幻想(ヘルシズム)の社会学—社会の医療化と生命権	八木 晃介		批評社		2008
優生思想と健康幻想—薬あればとて、毒をこのむべからず	八木 晃介		批評社		2011
生命(いのち)—人体リサイクル時代を迎えて	山口 研一郎	編・著	緑風出版	△15.9.6 b307 n54	2010
受精卵診断と出生前診断—その導入をめぐる争いの現代史	利光 恵子		生活書院	△19.11.11 b518 n87	2012
「自己決定権」という罠	小松美彦		言視舎	△19.11.20 b520 n87	2018
脳死・臓器移植 Q&A50: ドナーの立場で“いのち”を考える	臓器移植法を問	い直す市民ネットワーク	海鳴社		2011
認知症の人が安楽死する国	後藤 猛		雲母書房	△▽13.12.29 b244 n44	2012
遺伝子を操作する—ばら色の約束が悪夢に変わるとき	メイワン	ホー	三交社	◎02.3.5	2000
遺伝子改造社会 あなたはどうする	池田 清彦		洋泉社	○▽01.8.5	2001
自己決定権は幻想である	小松 美彦		洋泉社	○10.11.4 b126 n25	2004
無痛文明論	森岡 正博		トランスビュー		2003
アシュリー事件—メディカル・コントロールと新・優生思想の時代	児玉 真美		生活書院	△▽13.12.5 b240 n44	2011
海のいる風景—重症心身障害のある子どもの親であるということ	児玉 真美		生活書院	○▽13.12.15 b243 n44	2012